

助けられる人から助ける人へ

全国初の高等学校「防災士養成カリキュラム」の開発

～幼・小・中・地域と高校の連携を見据えて～

高校生防災士
70名 誕生!

神戸市立科学技術高等学校

<防災士制度とは>

阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ創設された、民間人の防災リーダーを養成するための制度であり、全国で161,650人(神戸市1,109人)が防災士として認証を受けている。(2018年12月末時点)

<高校生防災士の必要性>

全国の防災士の高齢化は進んでいる。現在19歳以下の防災士は約3,000人で全体の2%にとどまる。阪神・淡路大震災の教訓を風化させず、次世代に伝承するとともに、今後起こりうる災害に備え「防災・減災・縮災」に取り組む地域社会づくりには、次世代の人材育成が重要である。本校では工業の専門知識・技術・技能をもった防災士を養成することで、卒業後の就職先や進学先、また各地域社会での防災力向上に貢献する。

<防災士養成研修カリキュラム開発>

既存の学校設定科目「都市防災」のカリキュラムを改編し、日本防災士機構の設定する防災士養成カリキュラムの学習内容に適合させ、養成機関として承認を得た。生徒たちに「自助・共助・協働」を大切にする態度や力を修得させるために「災害から生命・生活・人生を守る知識と技能」を学ばせる。

授業では、場面対応シミュレーションや市民救命士講習などのアクティブラーニングを効果的に取り入れ「主体的・対話的で深い学び」を創出する。また、神戸市行政や地域の防災コミュニティなどと連携し、外部の専門の人材を講師として活用する。これにより教員だけでは伝えきれない阪神・淡路大震災の経験と教訓、行政の災害対策・対応、地域の課題まで幅広く学ぶことができる。

これらの学びと工業の専門学科の「見方・考え方」を教科横断的に接続することで、複雑に変化するこれからの社会や、あらゆる生活の場面で直面するさまざまな課題に、主体的かつ協働的に取り組む姿勢と力を育成する。

<主な連携先>

NPO法人日本防災士機構、神戸市(消防局、危機管理室、建設局、企画調整局、土木の学校神戸の会)、兵庫県(県土整備部土木局総合治水課) FAST チーム TEC 安²(神戸市消防局認定市民救命士講習実施団体)、兵庫県防災士会、NPO法人プラス・アーツ、JICA 関西 等

<外部講師による授業風景>



(神戸市消防局)



(防災科学技術研究所)



(神戸すまいまちづくり公社)



(市民救命士講習)

<初年度の実施状況>

実施科目：学校設定科目「都市防災」2単位 担当教員2名(防災士)

使用教材：「防災士教本」日本防災士機構 編集発行

実施形態：3年次 自由選択科目

選択者数：機械工学科26名、電気情報工学科15名、都市工学科33名、科学工学科4名 合計78名

外部講師：7名(主な連携先より派遣)、市民救命士講習インストラクター(Fast TEC 安²)10名

<学びを活用した活動風景>

平成30年度 灘区総合防災訓練
○9月9日(日)
○9時30分～11時45分
○摩耶小学校



西区 木見中央公園

西区総合防災訓練
2018.11.24



斜面を安定させる工法

平成30年
12月20日～27日

バンドー
青少年科学館

構型実験に参加しませんか!
12月23日(日) 11:30/14:00
の2回、実験を行います。
ぜひ、見に来てね!



HAT神戸連携防災イベント
イザ!美かえる大キャラバン
2019.1.27

